学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）　教育 0-1
１．　医学部　教育 1-1
２．　医学系研究科　教育 2-1

旭川医科大学

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況	教育成果の状況	質の向上度
医学部	期待される水準を上回る	期待される水準にある	改善、向上している
医学系研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している

医学部

Ⅰ　教育の水準　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　教育 1-2

Ⅱ　質の向上度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　教育 1-4

Ⅰ　教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ　教育活動の状況

〔判定〕　期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点１－１「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

○　地域との連携基盤を強固にするため、推薦入試道北・道東特別選抜と AO 入試北海道特別選抜の枠を設け、平成 22 年度から入学定員 112 名の約 45%を道内高等学校卒業生としており、推薦入試・AO 入試者と一般入試者では学力の差がないことを検証している。また、学士編入学は 10 名中５名を北海道地域枠としている。

○　教員の北海道内高等学校への訪問は、毎年度 40 校程度となっている。また、メディカルキャンプセミナーを毎年度実施し、平成 27 年度は 24 校から 68 名の高等学校生が参加している。

観点１－２「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

○　医学科では、平成 22 年度に地域医療教育学講座を設置し、平成 24 年度から道東・道北地域の 9 基幹病院における「地域医療実習」を必修化している。また、平成 27 年度から新カリキュラムへ移行し、実習の単位数は 63 単位から 85 単位へ増加している。

○　医学科、看護学科合同で病院・福祉施設等での「早期体験学習」を行い、低学年時期からチーム医療・職種水平的な医療実践の考え方を学んでいる。

○　平成 23 年度から低学年次生を対象に研究内容を研究者自身が語るサイエンスカフェ等を実施している。

○　旭川市や他大学との図書館連携、図書館の 24 時間利用、ディスカッションスペース 86 席の整備等を実施している。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ　教育成果の状況

〔判定〕　期待される水準にある

〔判断理由〕

観点２－１「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

○　第２期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）における国家試験合格率（既卒者含む）の平均は、医師 92.2%、看護師 98.4%、保健師 96.5%、助産師 96.7%となっている。

○　第２期中期目標期間における標準修業年限内の卒業率は、医学科では 82.4%、看護学科では 95.6%となっている。

観点２－２「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

○　第２期中期目標期間における就職率は、医学科では 92.5%、看護学科では 98.7%となっている。また、北海道内医療機関へ就職する者の割合について平成 22 年度と平成 27 年度を比較すると、医学科では 53%から 86%、看護学科では 80%から 88%となっている。

○　地域枠で入学した平成 27 年度卒業生について、就職者 31 名全員は旭川医科大学病院や北海道内の医療機関に就職しており、地域枠制度が機能している。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ　質の向上度

１．質の向上度

〔判定〕　改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

○　医学科では、平成 24 年度に道東・道北地域の 9 基幹病院における「地域医療実習」を必修化している。また、平成 27 年度からの新カリキュラムでは、実習単位数は 63 単位から 85 単位へ増加している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

○　第２期中期目標期間における国家試験合格率（既卒者含む）の平均は、医師 92.2%、看護師 98.4%、保健師 96.5%、助産師 96.7%となっている。

○　地域医療機関への就職率について、平成 22 年度と平成 27 年度を比較すると、医学科は 53%から 86%へ、看護学科は 80%から 88%へ増加している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

医学系研究科

Ⅰ　教育の水準　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　教育 2-2

Ⅱ　質の向上度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　教育 2-4

Ⅰ　教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ　教育活動の状況

〔判定〕　期待される水準にある

〔判断理由〕

観点１－１「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

○　学生一人当たりの教員数は、平成 21 年度の 2.1 名から平成 27 年度の 2.7 名となっている。

○　医学専攻博士課程では、臨床研究者コースにがん専門医資格取得のための地域臨床腫瘍医養成プログラムを設置し、看護学専攻修士課程では、高度実践コースにがん看護専門看護師教育課程を設置するなど、社会的要請の強いがん専門医療人を養成している。

観点１－２「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

○　修士課程では、看護の専門領域ごとに講義、演習の授業科目（全 52 科目）を配置し、講義と演習が対応した授業内容となるよう配慮している。博士課程では、研究者コース及び臨床研究者コースの共通講義として「共通基盤医学特論」、「共通先端医学特論」、「共通医学論文特論」の３科目を、コース別に「医学基盤演習」を配置している。

○　地域医療に関する教育として、修士課程では、地域保健・医療・福祉政策の在り方等について看護の視点を含めた講義を実施している。博士課程では、臨床的医療経済学、経営戦略等の策定・実施、遠隔医療を含む医療情報等に関する基礎、応用研究の講義等を実施している。

以上の状況等及び医学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ　教育成果の状況

〔判定〕　期待される水準にある

〔判断理由〕

観点２－１「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

○　第２期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）における修了率は、修士課程では 83%（70 名）、博士課程では 74%（90 名）となっている。

○　平成 27 年度の博士課程修了生の学位論文は、すべて学術雑誌に掲載されてお

り、15 件中 14 件は英文論文となっている。

観点２－２「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

○　第２期中期目標期間における就職率は、修士課程では 90.9%、博士課程では 96.5%となっており、大半が医療人、医学研究者、教育者として、先進医療の提供や地域医療に貢献している。

以上の状況等及び医学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ　質の向上度

１．質の向上度

〔判定〕　質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

○　学生一人当たりの教員数は、平成 21 年度の 2.1 名から平成 27 年度の 2.7 名となっている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

○　第２期中期目標期間における修了生の進路は、医師、看護師等となっており、先進医療の提供や地域医療に貢献している。また、教員となる者は毎年度４名から 11 名の間を推移している。

これらに加え、第１期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。